

NO	事業名(実施計画)	位置付け	コメント	進捗度	ニーズとの合致	方向性	
1	ネットワーク・コーディネート	重点	地区担当職員の配置がなされ、地区ごとのネットワーク・コーディネートはすすめられるようになった。今後、地区の中の個別のニーズを拾い上げ、地区で共有していったほしい。そして、市民の潜在的ニーズとしてある「地域の支え合い」づくりをさらに進めるために、広報活動をさらにすすめてほしい。例えば、社会資源マップの周知等も心がけてほしい。	4.0	4.0	5.0	
2	災害ネットワーク・災害時対応	重点	防災は遠くて近い問題である。防災への備えに対する住民の認識の差を縮め、地域の人が同じ気持ちで向き合えるよう、広報に力を入れてほしい。また、市や他団体との連携をさらに強めていっていただきたい。	3.0	3.0	4.0	
3	人材育成・確保		社会福祉協議会の職員が生活支援コーディネーターの役割を果たしていくことにより、住民の中での人材の養成が進み、これまで以上に活発に活動されることが期待できる。「地域での関わりから情報把握」したことを、今後、さらに市民が地域課題を知るきっかけに結びつけ、市民の取り組みに繋げていくことに期待したい。育成した人材が、必要な助成を受けられるかを検証し、継続した人材確保を得られるようにしていったほしい。人材の育成については、講座等の回数、時期、周知方法、参加しやすさなど課題が見受けられるとの意見が出された。	4.0	4.0	5.0	
4	助け合い・支えあい		小地域のネットワークや、住民の助け合い・支え合いの活動は充実してきている。ただ、活動計画の策定後、新たな制度が生まれてきており、それらとの有機的なつながりについては、さらなる工夫が求められるであろう。ほのぼのネットや、地域ケアネットワークなどにおいて、同じ人がいろいろな役割で活躍することとなっている。継続性は生まれるものの、個人個人の負担は増えているのではないかと。より多くの人が担えるよう工夫が必要と思われる。	3.0	4.0	5.0	
5	介護予防・高齢者の生きがい		時代のニーズに合わせたプログラムで、新たな参加者を呼び込む工夫がされており、評価できる。市内の高齢者が元気に過ごしてもらうことはとても大切で、自宅にこもりがちな高齢者を引き出す魅力ある行事を今後も企画していったほしい。自主グループが増加し、「高齢者が通いやすい場所」で気軽にできる「介護予防活動」に繋がることは評価でき、期待したい。高齢者が、介護予防講座を気楽にうけられるように工夫を重ねていったほしい。また、1回でやめることがないフォローをしていったほしい。	4.0	4.0	5.0	
6	子育て支援		地域のさまざまな団体と連携して、子育て支援をしていることは評価できる。学童保育も引き続き充実させていったほしい。特に、「ほのぼのネット」に子育てサロンが多くなったことは評価できる。高齢者の領域と異なり、対象者がすぐ入れ替わるので、子育て支援の活動は、短期間で活動が終了してしまわないよう、次へつながるコーディネートを視野に入れると良いであろう。また、参加者からの口コミで後輩ママに広げていったほしい。	4.0	4.0	4.0	
7	認知症の方への支援・介護者支援	重点	介護者談話室サポーターの養成や介護者のサロンづくりの増設は評価できる。これからもっと活動を広げてほしい。認知症の方に関係するネットワークづくりも他のネットワークと合わせて充実していったほしいと評価できる。ただ、徘徊者を発見するシステムの構築などは今後の検討課題である。また、認知症の方や介護者が孤立しないような方策、「場」「ネットワーク」が広範囲の当事者や市民に浸透していくことが望まれる。	4.0	4.0	5.0	
8	権利擁護		成年後見制度の説明をアウトリーチして行っていることが評価できる。市民後見人養成を近隣市とのネットワークを活用して養成しているのも、人数は少ないが、評価できる。成年後見制度を必要とする人は今後も増加すると考えられるので、開かれた制度であるためにも、啓発活動を行っていただきたい。また、意見交換なども含め、交流に努めていったほしい。なお、法人後見(むしろ、法人後見監督等サポート)に向けての運営体制、人員体制の見直しが必要となるのではないかと。ただし、その点については人的資源や財政面での制約を感じるとの意見が出された。	3.0	4.0	4.0	

9	生活困窮者		生活困窮者、子どもの貧困に関する対策はしっかりと取り組んでいただきたい。市の生活困窮者支援調整会議に参加していることは評価できる。子どもの貧困防止に関して受験生チャレンジ支援資金等の周知の仕方を工夫していることは評価できるが、SOSを出せない子どもたちのために、保健センターや子ども家庭支援センター、学校へのアプローチをして向き合い方をさぐり、子どもの権利を守ってほしい。特に、教育機関等との連携が不十分のように感じられるとの意見が出された。セカンドハーベスト・ジャパンとの連携は評価できる。	3.0	4.0	4.0	
10	組織体制強化	重点	組織の見直しの実行は評価できる。学童保育員を含めた、全職員のスキルアップに今後も努めていっていただきたい。なお、三鷹市と一体的に事業に取り組むこと、中でも災害時緊急時の事業展開などへの取り組みは、さらなる具体的な取り組みが必要であろう。進捗状況としてはゆっくりな感じもするが、着実に進めていかなければならない課題なので、関係機関と十分な連携をとりつつ確実に進めていきたい。他の機関と協働し、各機関が100%の力を出せる連携を意識して欲しいとの意見が出された。	3.0	4.0	4.0	
11	広報・PR強化		広報誌で「募金箱のあるお店」の企画等は評価できる。地区ごとの社会資源マップ、「安心くん」などを活用し、情報の届きにくい方への広報にも努力がみられ、評価できる。インターネットを利用した情報発信は新たな形が実現されることが望まれる。広報全体については、以前よりも広報誌が読みやすくなってきているという意見が出された。	4.0	4.0	4.0	
12	資金調達		個別の業界への入会呼びかけなどの努力、募金箱設置店が増えたことは評価できる。一部事業について、指定管理者制度による今後の収入源確保の不安は残るが、社協の本質に合致した新たな事業の受託は評価できる。会費収納方法は抜本的に変更など検討してはどうか。『ゆりかご』に掲載されている会員の位置づけについての情報が市民に浸透する必要があるとの意見が出された。	3.0	3.0	3.0	

NO	事業名(実施計画)	個々の委員から寄せられた、今後の地域福祉活動についての付帯意見
1	ネットワーク・コーディネート	
2	災害ネットワーク・災害時対応	現在、震災時の避難所開設・運営訓練が市内の一部でしか行われていないのは課題と考えるので、検討していただきたい。また、全世帯へのマニュアルの配布を検討してほしいとの意見も出された。
3	人材育成・確保	
4	助け合い・支えあい	ほのぼのネット員は、固定化、高齢化し、さらに、新規の方が入りにくい雰囲気を醸し出しているように思えるという意見が出された。また、新たな担い手の確保のために、有償化等の検討をしてはどうかという意見も出された。
5	介護予防・高齢者の生きがい	高齢者の意見を聞けるような機会を作れないかとの意見も出された。
6	子育て支援	市との連携もとれるともっと良いとの意見が出された。
7	認知症の方への支援・介護者支援	地域包括支援センターを通し、デイサービス相互の連絡体制づくりの音頭取りを行ってはどうかとの意見が出された。また、介護者が話をできる機会や場所を増やせたのならば、病院などを含めより多くの参加者が気楽に参加できる体制を整えてほしいとの意見も出された。
8	権利擁護	
9	生活困窮者	地域福祉活動計画の柱立てと、下位項目の内容についての意見が出された。
10	組織体制強化	地域福祉活動計画の柱立てと、下位項目の内容についての意見が出された。
11	広報・PR強化	広報紙やホームページへ掲載すればいいのではなく、読んでいただけるような紙面作り(ページづくり)の努力が必要との意見や、「妊娠された方へ!!」「介護している方へ!!」などとターゲットをわかりやすくし、今後も続けてほしいという意見、また、媒体の工夫と並んで人と人との直接の情報交換が力を発揮していると感じるとの意見が出された。
12	資金調達	例えば、防災のメリットとかを提供し、その代わりに会員になってもらうなど、具体的なメリットを打ち出さないと新規の入会や継続は見込めないと思うとの意見も出された。また、住民には意識を持って頂き、社会福祉協議会の会員になるよう協力をお願いするしかないとの意見も出された。